# 技術・行政情報

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| | | | 2-3（1981） | 101 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 2-4（1981） | 97 |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | | |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 2-5（1981） | 108 |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | | |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 2-6（1981） | 104 |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | | |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 3-1（1982） | 99 |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | | |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | 3-3（1982） | 91 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | | |
| | 大阪工業技術試験所 | 中根　正典 | 3-4（1982） | 85 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | | |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 3-5（1982） | 91 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 3-6（1982） | 94 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 4-1（1983） | 89 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 4-2（1983） | 97 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 4-3（1983） | 95 |
| 58年度サンシャイン・ムーンライト計画の予算案等決まる | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 4-4（1983） | 108 |
| 石化業界のエチレン集約案まとまる | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | | |
| 文部省科学研究費補助金「エネルギー特別研究（エネルギー）」第4回講演会開催について | 京都大学 | 荻野　文丸 | | |
| 世界のエチレン生産設備見通し | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 4-5（1983） | 97 |
| INS（高度情報通信システム）の動向について | 朝日新聞社 | 坂本　武久 | | |
| 文部省科学研究費補助金「エネルギー特別研究（エネルギー）」昭和55～57年度3年間の研究成果発表会開催について | 京都大学 | 荻野　文丸 | | |
| 資源・エネルギーに関する国の技術・研究開発施策の要望（日本化学工業協会） | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 4-6（1983） | 100 |
| 通算，熱水鉱床の開発へ | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | | |
| ムーンライト（省エネルギー技術開発）計画の現況 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 5-1（1984） | 95 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 5-2（1984） | 93 |
| 59年度サンシャイン・ムーンライト計画の予算案等決まる | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 5-3（1984） | 98 |
| 主要国の新エネルギー技術開発状況 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 5-4（1984） | 101 |
| 電導性のある有機電子材料 | 朝日新聞社 | 坂本　武久 | 5-5（1984） | 104 |
| この人と1時間　中国の石炭開発計画を担う　張長松石炭工業省露天煤礦開発弁公室主任 | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | | |
| 「第4回新エネルギー産業シンポジウム」の報告 | （財）新エネルギー財団 | 手嶋　　健 | 5-6（1984） | 100 |
| 技術開発の展望研究会報告 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 6-1（1985） | 131 |
| 次世代産業基盤技術開発の海外での取り組み | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 6-2（1985） | 97 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 6-3（1985） | 99 |
| バイオインダストリーの将来見通し | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 6-4（1985） | 98 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 6-5（1985） | 102 |
| サンシャイン計画主要プロジェクトの評価 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 7-1（1986） | 106 |
| 昭和61年度通商産業省技術開発関係予算 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 7-2（1986） | 90 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 7-3（1986） | 90 |
| 石炭液化プラント－長期的展望 | オーストラリア大使館 | | 7-4（1986） | 105 |
| 61年度サンシャイン・ムーンライト計画の予算概要等 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 7-5（1986） | 88 |
| 21世紀エネルギービジョン | （財）電力中央研究所 | 加藤　芳夫 | 8-1（1987） | 105 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| 第6回新エネルギー産業シンポジウム | (財)新エネルギー財団 | 奥田　義一 | 8-2 (1987) | 96 |
| アルコール自動車への切替 | | 藤本　枝太 | 8-3 (1987) | 88 |
| 新エネルギー技術開発と実用化促進に関する昭和62年度政策提言 | (財)新エネルギー財団 | 鎌田　洋 | 8-4 (1987) | 94 |
| 貿易摩擦とエネルギー事情 | (株)野村総合研究所 | 山本　敬一 | 8-5 (1987) | 82 |
| 昭和62年度工業技術院の重点施策 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 8-5 (1987) | 84 |
| 21世紀を拓く基礎技術 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 8-6 (1987) | 75 |
| 民生用コージェネレーションに関する制度的枠組の変化 | (財)日本システム開発研究所 | 垣田　行雄 | 9-2 (1988) | 93 |
| 昭和63年度における通産省の技術開発政策 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 9-3 (1988) | 83 |
| わが国における圧縮空気貯蔵システム | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 9-4 (1988) | 88 |
| コージェネレーションに係る研究開発 | 化学技術研究所 | 西嶋　昭生 | 9-5 (1988) | 85 |
| ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム他 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 9-6 (1988) | 79 |
| 米国電力研究所とその研究開発戦略 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 10-1 (1989) | 94 |
| 電気加熱技術の持つ意義 | (株)三菱総合研究所 | 藤田　渉 | 10-2 (1989) | 91 |
| 超電導研究の最近の動向 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 10-3 (1989) | 88 |
| 最近の環境問題と炭酸ガス処理技術 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 10-4 (1989) | 84 |
| 地球環境問題をめぐる通産省の動き | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 10-5 (1989) | 86 |
| 遠赤外線の利用をめぐって | 日刊工業新聞社 | 原　昇平 | 10-6 (1989) | 90 |
| TAG:電力技術の経済分析法 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 11-1 (1990) | 82 |
| 平成2年度の政府予算案から見た地球環境の保全対策 | 大阪工業技術試験所 | 石井　英一 | 11-2 (1990) | 98 |
| 「花の万博」テクノあれこれ | 日刊工業新聞社 | 原　昇平 | 11-3 (1990) | 83 |
| 発電プラントのエネルギー収支分析 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 11-4 (1990) | 84 |
| ニッケル・水素電池をめぐる最近の話題 | 大阪工業技術試験所 | 石川　博 | 11-5 (1990) | 92 |
| 地球温暖化を巡る先進国の政策動向 | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 11-6 (1990) | 92 |
| 動き出した未利用エネルギー開発<br>—清掃工場余熱利用への期待— | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 12-1 (1991) | 119 |
| 地球環境温暖化防止条約締結へ急テンポの動き | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 12-1 (1991) | 122 |
| 活発化する水素エネルギー技術開発 | 大阪工業技術試験所 | 石川　博 | 12-2 (1991) | 90 |
| 米国政府の市場志向型国内エネルギー計画 | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 12-3 (1991) | 87 |
| 二酸化炭素税導入の実際 | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 12-4 (1991) | 88 |
| 電気事業の費用最小化計画 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 12-5 (1991) | 78 |
| 地球環境関連の調査及び開発研究の動向 | 大阪工業技術試験所 | 石川　博 | 12-6 (1991) | 91 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　次生 | 13-1 (1992) | 106 |
| 旧ソ連の核兵器管理問題 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 13-2 (1992) | 92 |
| 南太平洋諸島における太陽光発電 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 13-3 (1992) | 78 |
| 地球規模でのクリーンエネルギーネットワーク構想 | 大阪工業技術試験所 | 石川　博 | 13-4 (1992) | 88 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 13-5 (1992) | 88 |
| 米国原子炉閉鎖決定の背景と意味 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 13-6 (1992) | 91 |
| 21世紀を支える「ニューサンシャイン計画」—通産省・工業技術院のエネルギー・環境領域総合技術開発推進計画— | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 14-1 (1993) | 108 |
| 工業技術院をめぐる最近の動き | 大阪工業技術試験所 | 石川　博 | 14-2 (1993) | 98 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 14-3 (1993) | 89 |
| 核兵器解体後のプルトニウム処分問題 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 14-4 (1993) | 92 |
| 産学官によるエコマテリアル研究がスタート | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 14-5 (1993) | 74 |
| 工技院地域試験所が研究所に | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 14-6 (1993) | 98 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 15-1 (1994) | 104 |
| 米国軍事技術の民需転換:その現状と課題 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 15-2 (1994) | 96 |
| オーストラリアの再生可能エネルギー開発と省エネルギー施策 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 15-3 (1994) | 92 |
| ニューサンシャイン計画WE-NETプロジェクトが発足 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 15-4 (1994) | 95 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 15-5 (1994) | 112 |
| 核物質密売の脅威と現実 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 15-6 (1994) | 92 |
| エネルギーと災害―発電システムによるリスクの大きさ― | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 16-1 (1995) | 115 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 16-2 (1995) | 105 |
| 平成7年度通商産業省技術開発関連施策の重点 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 16-3 (1995) | 91 |
| 米国の環境規則緩和論議 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 16-4 (1995) | 95 |
| アジア地域における原子力発電 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 16-5 (1995) | 87 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 16-6 (1995) | 88 |
| 科学技術基本法が成立 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 17-1 (1996) | 111 |
| 米国における電気自動車（ZEV）規制の動向 | ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学 | 鈴木達治郎 | 17-2 (1996) | 91 |
| 各国における発電システムのライフサイクル分析 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 17-3 (1996) | 87 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 17-4 (1996) | 87 |
| 米国カリフォルニア州のZEV規制の動向 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 17-6 (1996) | 93 |
| 米国に見る電力規制緩和とエネルギー技術選択への影響 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 18-1 (1997) | 103 |
| 発電技術のエネルギー密度と供給信頼性 | (財)電力中央研究所 | 内山　洋司 | 18-2 (1997) | 88 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 18-3 (1997) | 89 |
| ニューサンシャイン計画におけるリチウム二次電池の研究開発 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 18-4 (1997) | 90 |
| 脚光を浴びてきた自主行動計画 | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 18-5 (1997) | 96 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 18-6 (1997) | 87 |
| アジアにおける原子力協力の必要性と課題 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 19-1 (1998) | 92 |
| 気候変動枠組み条約第3回締約国会議（京都会議）に参加して | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 19-2 (1998) | 86 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 19-3 (1998) | 89 |
| ポリマーリチウム二次電池の開発動向 | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 19-4 (1998) | 91 |
| 余剰プルトニウム管理・処分の最近動向 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 19-5 (1998) | 90 |
| わが国でも始まった柔軟性措置に関する検討 | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 19-6 (1998) | 95 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 20-1 (1999) | 118 |
| 1998年度「新エネ大賞」から | 大阪工業技術研究所 | 石川　博 | 20-2 (1999) | 90 |
| 米国における高レベル放射性廃棄物（使用済み核燃料）処分を巡る政策議論 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 20-3 (1999) | 86 |
| 京都議定書の見通し | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 20-4 (1999) | 90 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 20-5 (1999) | 93 |
| 策定進む産業技術戦略 | 大阪工業技術研究所 | 小黒　啓介 | 20-6 (1999) | 88 |
| 東海村臨海事故の危険性とその持つ意味 | 東京大学 | 鈴木達治郎 | 21-1 (2000) | 90 |
| わが国初の京都メカニズムに関する民間企業向けワークショップ | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 21-2 (2000) | 93 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 21-3 (2000) | 90 |
| 産業技術力強化法 | 大阪工業技術研究所 | 小黒　啓介 | 21-4 (2000) | 86 |
| ドイツの原子力撤退合意について | 東京大学 | 鈴木達治郎 | 21-5 (2000) | 89 |
| 米国における炭素隔離研究開発計画について | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 21-6 (2000) | 86 |
| | 日刊工業新聞社 | 兼子　宗也 | 22-1 (2001) | 103 |
| 独立行政法人 産業技術総合研究所が発足 | 大阪工業技術研究所 | 小黒　啓介 | 22-2 (2001) | 66 |
| カリフォルニア電力危機の要因分析：技術，制度的問題点 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 22-3 (2001) | 73 |
| 米国ブッシュ政権による京都議定書離脱を巡る動向 | (株)三菱総合研究所 | 青柳　雅 | 22-4 (2001) | 75 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 22-5 (2001) | 70 |
| 固体高分子形燃料電池/水素エネルギー利用プログラム―21世紀の水素エネルギー社会の扉を開く鍵― | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 22-6 (2001) | 79 |
| 米国同時多発テロと原子力対策 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 23-1 (2002) | 75 |
| COP7と地球温暖化施策の動向 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 23-2 (2002) | 75 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 23-3 (2002) | 67 |
| | 産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 23-4 (2002) | 74 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| エネルギー技術開発政策と「市民参加」—具体的事例をもとに— | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 23-5 (2002) | 70 |
| ヨハネスブルグサミットの概要 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 23-6 (2002) | 62 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 24-1 (2003) | 73 |
| 「産業発掘戦略—技術革新」 | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 24-2 (2003) | 65 |
| イラク・北朝鮮情勢と核査察問題について | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 24-3 (2003) | 64 |
| 持続可能性を測定する試み | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 24-4 (2003) | 73 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 24-5 (2003) | 70 |
| 平成16年度経済産業省概算要求 | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 24-6 (2003) | 72 |
| 米国MIT報告書「原子力の将来」とその意味 | (財)電力中央研究所 | 鈴木達治郎 | 25-1 (2004) | 88 |
| | 〃 | 長野　浩司 | | |
| COP9と京都議定書の行方 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 25-2 (2004) | 68 |
| 愛知万博で複数の新エネシステム実証試験 | | | | |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 25-3 (2004) | 59 |
| 活発化する水素エネルギー社会に向けた動き | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 25-4 (2004) | 66 |
| 原子燃料サイクルの総合評価—ハーバード大報告書— | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 25-5 (2004) | 69 |
| 地球温暖化対策推進大綱見直しの動き | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 25-6 (2004) | 68 |
| ベトナムが国家エネルギー政策を立案へ | | | | |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 26-1 (2005) | 78 |
| COP10と京都議定書発効 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 26-2 (2005) | 67 |
| 京都議定書目標達成計画（案） | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 26-3 (2005) | 78 |
| 核不拡散を巡る国際議論について | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 26-4 (2005) | 70 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 26-5 (2005) | 67 |
| 平成18年度経済産業省概算要求 | (独)産業技術総合研究所 | 宮崎　義憲 | 27-1 (2006) | 81 |
| COP11及びCOP/MOP1の動向 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 27-2 (2006) | 75 |
| 米国「国際原子力エネルギーパートナーシップ」構想 | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 27-3 (2006) | 69 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 27-4 (2006) | 66 |
| 経済産業省での技術戦略マップ改訂へ—2006技術戦略マップの策定が進む | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 27-5 (2006) | 66 |
| 国際的な原子燃料供給保障の提案 | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 28-1 (2007) | 66 |
| 地球温暖化問題を取り巻く最近の動向 | (株)三菱総合研究所 | 中村　秀臣 | 28-3 (2007) | 71 |
| 次世代自動車用電池開発プロジェクトの動向 | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 28-4 (2007) | 65 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 28-5 (2007) | 68 |
| GRI持続可能性報告書策定ガイドライン・電気事業付属書—社会的責任のガイドライン，ガイドラインの社会的責任— | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 28-6 (2007) | 66 |
| | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 29-1 (2008) | 60 |
| 次世代自動車・燃料電池イニシアチブについて | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 29-2 (2008) | 61 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 29-3 (2008) | 66 |
| 原子力の供給安定性：定量的可視化の試み | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 29-4 (2008) | 61 |
| 洞爺湖サミットを終えて：中長期目標の行方 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 29-5 (2008) | 63 |
| 燃料電池水素技術開発のロードマップの改訂 | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 29-6 (2008) | 53 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 30-2 (2009) | 69 |
| エネルギーセキュリティの定義に関わる論争 | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 30-3 (2009) | 51 |
| ポスト京都の国際枠組策定に向けて | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 30-4 (2009) | 54 |
| 家庭用固体酸化物形燃料電池システム開発の動向 | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 30-5 (2009) | 71 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 30-6 (2009) | 59 |
| 国内の温暖化対策の行方と国際交渉 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 31-1 (2010) | 55 |
| 電力システムへの蓄電池技術の展開 | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 31-2 (2010) | 60 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 31-3 (2010) | 45 |
| IEA/NEA「発電コスト予測」2010年版報告 | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 31-4 (2010) | 58 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| 米国と日本における最近の温暖化政策動向 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 31-5 (2010) | 59 |
| 次世代自動車戦略への展開 | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 31-6 (2010) | 52 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 32-1 (2011) | 67 |
| MIT報告書「原子燃料サイクルの将来」 | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 32-2 (2011) | 49 |
| 最近の温暖化政策動向と大震災の影響 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 32-3 (2011) | 61 |
| 電力の効率的利用へ向けて | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 32-4 (2011) | 56 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 32-5 (2011) | 76 |
| 福島第一原発周辺環境の除染・修復に向けて | (財)電力中央研究所 | 長野　浩司 | 32-6 (2011) | 54 |
| 2013年以降の地球温暖化対策の行方 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 33-1 (2012) | 56 |
| 平成24年度産業技術政策重点項目について | (独)産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 33-2 (2012) | 54 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 33-3 (2012) | 53 |
| 「脱原子力依存政策」の論点 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 33-4 (2012) | 43 |
| 我が国のエネルギー選択と今後の温暖化対策 | (株)三菱総合研究所 | 小林　信之 | 33-5 (2012) | 70 |
| 蓄電池活用による省エネルギー対策について | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 33-6 (2012) | 60 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 34-1 (2013) | 62 |
| 電力システム改革の行方 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 34-2 (2013) | 51 |
| 動き出した二国間オフセット・クレジット制度 | (株)三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 34-3 (2013) | 56 |
| 近づく燃料電池自動車の市場導入 | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 34-4 (2013) | 53 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 34-4 (2013) | 69 |
| ドイツ「脱原子力対策」のコスト評価 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 34-6 (2013) | 60 |
| COP19に見るボトムアップ・アプローチの片鱗 | (株)三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 35-1 (2014) | 71 |
| 平成26年度の資源エネルギー政策の概要 | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 35-2 (2014) | 56 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 35-3 (2014) | 52 |
| 産総研福島再生可能エネルギー研究所の開所 | 産業技術総合研究所 | 宗像　鉄雄 | 35-4 (2014) | 73 |
| 原子力リスク管理における科学と行政の結節点 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 35-5 (2014) | 79 |
| 水素社会の実現に向けて | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 35-6 (2014) | 63 |
| 本格化する次世代自動車の普及に向けた動き | (株)三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 36-1 (2015) | 78 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 36-2 (2015) | 52 |
| 改めてエネルギーセキュリティを考える | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 36-3 (2015) | 53 |
| 蓄電池技術の普及促進に向けて | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 36-4 (2015) | 67 |
| 進展するスマートコミュニティに関する標準化 | (株)三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 36-5 (2015) | 68 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 36-6 (2015) | 70 |
| 電気事業の研究開発戦略を考える | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 37-1 (2016) | 86 |
| 水素エネルギー社会への課題と対応 | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 37-2 (2016) | 67 |
| 本格化する蓄電池の普及に向けた動き | (株)三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 37-3 (2016) | 60 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 37-4 (2016) | 55 |
| 再エネ導入時のアデカシー確保 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 37-5 (2016) | 65 |
| オープンイノベーションへの研究機関の取り組み | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 37-6 (2016) | 60 |
| フレキシブルなシステムへ（電力システム分野の新たな動き） | (株)三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 38-1 (2017) | 62 |
| | 関西サイエンス・フォーラム | 兼子　次生 | 38-2 (2017) | 49 |
| グローバル・リスクの変貌 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 38-3 (2017) | 54 |
| 水素エネルギー技術の展開Power to Gasの取り組み | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 38-4 (2017) | 58 |
| 自動車の動力源の変化の兆し | (株)三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 38-5 (2017) | 69 |
| 電力システム改革の「完成」に向けて：英国の経験の再訪 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 38-6 (2017) | 74 |
| 平成30年度エネルギー資源政策の概要 | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 39-1 (2018) | 68 |
| エネルギー分野へのブロックチェーン利用 | 三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 39-2 (2018) | 62 |
| 「火力発電に係る判断基準ワーキンググループ」報告 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 39-3 (2018) | 64 |
| 水素・燃料電池技術の社会への浸透を目指して | 産業技術総合研究所 | 谷本　一美 | 39-4 (2018) | 58 |
| 再生可能エネルギーの主力電源化に向けて | 三菱総合研究所 | 志村雄一郎 | 39-5 (2018) | 62 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| 電力市場の3体問題 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 39-6 (2018) | 62 |
| 蓄電池技術開発政策 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 40-1 (2019) | 82 |
| 日欧米における自動車燃費規制の動向 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 40-2 (2019) | 68 |
| 発電効率価値取引について ―火力発電に係る判断基準ワーキンググループでの議論― | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 40-3 (2019) | 70 |
| 水素社会の実現に向けたロードマップ | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 40-4 (2019) | 77 |
| 気候変動関連の情報開示に関する動向（TCFDを例に） | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 40-5 (2019) | 69 |
| $CO_2$排出量大規模削減への長く曲がりくねった道 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 40-6 (2019) | 59 |
| RD20：クリーンエネルギー分野の革新技術研究における国際協力 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 41-1 (2020) | 65 |
| バイオマスの持続可能性基準 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 41-2 (2020) | 57 |
| 脱炭素化の基本方程式 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 41-3 (2020) | 70 |
| エネルギー転換・脱炭素化を推進する資源エネルギー関係予算概要 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 41-4 (2020) | 68 |
| 非効率石炭火力のフェードアウト | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 41-5 (2020) | 77 |
| 「石炭火力検討ワーキンググループ」への参画について | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 41-6 (2020) | 72 |
| 燃料電池技術開発政策の動向 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 42-1 (2021) | 75 |
| モデル分析の政策への活用について | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 42-2 (2021) | 68 |
| 「カーボンニュートラル」と原子力 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 42-3 (2021) | 68 |
| 電気自動車用全固体電池の技術開発 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 42-4 (2021) | 77 |
| 省エネ法における電気の一次換算係数の見直し等について | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 42-5 (2021) | 64 |
| OECD/NEA「原子力発電の長期運転」報告書 | 電力中央研究所 | 長野　浩司 | 42-6 (2021) | 66 |
| グリーンイノベーション基金事業第1号 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 43-1 (2022) | 69 |
| カーボンニュートラルにおける原子力の役割 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 43-2 (2022) | 65 |
| 電気事業における市場リスクマネジメントに関する指針 | 電力中央研究所 | 遠藤　　操 | 43-3 (2022) | 69 |
| 蓄電池に関するグリーンイノベーション基金事業 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 43-4 (2022) | 78 |
| 節ガス対策に関する検討について | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 43-5 (2022) | 71 |
| 英国の「エネルギー安全保障戦略」における原子力発電 | 電力中央研究所 | 稲村　智昌 | 43-6 (2022) | 80 |
| 蓄電池産業戦略 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 44-1 (2023) | 72 |
| GX-ETSの検討状況について | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 44-2 (2023) | 68 |
| 電気料金の高騰を巡る動向と政策対応 | 電力中央研究所 | 後藤　久典 | 44-3 (2023) | 70 |
| 蓄電池人材育成 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 44-4 (2023) | 71 |
| 欧州炭素国境調整措置の状況について | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 44-5 (2023) | 61 |
| 長期脱炭素電源オークションの導入の背景と制度の特徴 | 電力中央研究所 | 井上　智弘 | 44-6 (2023) | 75 |
| モビリティにおける水素の普及に向けて | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 45-1 (2024) | 68 |
| COP28の成果 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 45-2 (2024) | 74 |
| 二酸化炭素の貯留事業に関する法律案（CCS事業法）の概要 | 電力中央研究所 | 坂本　将吾 | 45-3 (2024) | 55 |
| ネガティブエミッション技術の動向 | 産業技術総合研究所 | 田中　真悟 | 45-4 (2024) | 60 |
| | 〃 | 安田　和明 | | |
| 水素社会推進法について | 三菱総合研究所 | 田中　　僚 | 45-5 (2024) | 65 |
| リスクコミュニケーションガイドの紹介<br>～原子力をめぐる信頼と地域対話のために～ | 電力中央研究所 | 桑垣　玲子 | 45-6 (2024) | 63 |
| 蓄電池産業戦略の推進 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 46-1 (2025) | 60 |
| 米国選挙の結果が世界の気候変動対策にもたらす影響 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 46-2 (2025) | 66 |
| | 〃 | 山口建一郎 | | |
| EUの気候変動政策の見通し　ークリーン産業ディールと規制緩和ー | 電力中央研究所 | 堀尾　健太 | 46-3 (2025) | 74 |
| 燃料電池・水素技術開発ロードマップ | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 46-4 (2025) | 62 |
| GX-ETSの本格導入に向けた検討状況 | 三菱総合研究所 | 福田　　桂 | 46-5 (2025) | 80 |
| レベニューキャップ制度における物価調整の課題 | 電力中央研究所 | 澤部まどか | 46-6 (2025) | 77 |
| 蓄電池人材の創出と育成 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 47-1 (2026) | 64 |

| 題　目 | 所　属 | 執筆者 | Vol.-No.（発行年） | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| 家庭用機器向けディマンドリスポンス機能の要件検討（DRready勉強会の取組み） | 三菱総合研究所 | 向井　康太 | 47-2 (2026) | 70 |
| 欧州における送配電料金の価格シグナル機能に関する議論 | 電力中央研究所 | 古澤　健 | 47-3 (2026) | 55 |
| 蓄電池産業戦略の改訂 | 産業技術総合研究所 | 安田　和明 | 47-4 (2026) | 77 |
| インバータ制御に起因するSub-Synchronous Oscillation（海外事例にみる日本への示唆） | 三菱総合研究所 | 日野　大樹 | 47-5 (2026) | 67 |
| | 産業技術総合研究所 | 織原　大 | | |